

近江同盟新聞

発行所
 近江同盟新聞社
 彦根市立花町2-63
 TEL 23-0066
 FAX 23-0067
 購読料 月840円
 (消費税5%込み)
 日・水曜・祭日休刊
 禁断断転載

あすの天気

北西の風
 曇時々晴

彦根地方气象台

「グラントデザイン研究会」発足

彦根の沈滞打破めざす

市民主体のビジョン提言へ

経済人25人

まち全体の活気が衰え、長年の沈滞化から抜け出せない彦根の現状を憂える市内の経済人らが、このほど「彦根グラントデザイン研究会」(代表幹事＝小出英樹・キントー社長)を発足させ、市民が中心に彦根の進むべきビジョンを描き、具体的な施策の発信をめざす組織として活動することになった。近く市民千人規模のアンケートを実施し、十一月にグラントデザインを発表する予定だ。

彦根グラントデザイン研究会(彦根GD研究会)は、彦根市内や近隣町に拠点を置く事業所の代表ら二十五人と一団体(彦根百貨卸商業協同組合)で構成、同組合に事務局を置く。三十歳

代前半の若手から経済界の重鎮メンバーまでが加わり、今年四月に結成した。アドバイザーに彦根市出身でシンクタンク「日本政策フロンティア」代表の小田全宏氏を迎え、市の現状

調査や、特色あるまちづくりを行っている全国の自治体調査など、今まで月一回の勉強会を開いてきた。小出代表らによると「かつて栄えた彦根が沈滞し活気が無くなっているのは、彦根が進むべきビジョンを市民と行政、各種団体が共有できていないのが原因。彦根GD研究会では、歴史と伝統のある彦根の地域特性を活かした経済や教育分野などの発展計画を作成することが目的」としている。

これまでの研究活動を踏まえ、今月二十八日から三日間、訪問面接方式の市民アンケートを実施。有効回答千件をめざし、市内全域

で無作為抽出の成人千五百人程度を対象に大学生調査員が回る計画で、結果は公表し十一月に「グラントデザイン」をまとめ発表する。提言は行政にも示し、シンポジウムを開くなどして市民と共に実践の方策を探る。

市民アンケート 来週末に実施

「合併」含む質問項目

アンケートでは▽彦根市が抱えている問題点▽教育面での問題▽彦根市の経済活性化に必要な制度や施策▽まちづくりを進める中心となるべきものについて、具体例から複数選択を求めらる。また合併についても犬上郡三町のほか愛知郡や坂田郡を加えた「枠組み」や「合併しない」の選択肢を並べている。

来春市長選へ 伏線の見方も

〈解説〉そうそうたる市内

の経済人が集まった彦根GD研究会が活動を表面化させた。小出英樹代表(53)らは「今年三月ごろから急速に機運が高まり自然発生的

に集まった」と話し、アンケート項目に合併問題が含まれていることについて「合併は研究会の目的ではなくグラントデザインの一環だが、会員は賛成が多く、地方分権や都市間競争激化に對する彦根の閉塞感など打破のため、彦根地域と周辺の経済活性化へ人づくりと経済基盤強化が目的」と説明した。

また「秋に提言を出したあとは経済人以外の一般市民を入れた推進組織を考えている」「オーミケンシや住友セメント跡地を地元主導で活用できなかったことの反省や、カネボウ跡地活用への可能性」などにも触れた。発表で同席した「著名人」の小田全宏氏は「市民の自己責任」の言葉を使い「彦根の市民はアカンアカンと言っていないで、カギを開けていく一つの方法

がグラントデザインなどと述べた。経済人ばかりというのに引掛かる市民もあろうが、カネもチェも出し合って彦根の活性化を探ろうと思う。試みは素晴らしいと思う。ただ市内は市町合併を巡って市長と行政、議会、市民が複雑な動きを見せている時であり、合併特例法への最終判断期限と「合併を含む」グラントデザイン提言が、最も動きの激化しそうな時期に鉢合わせとなることとが確実視される。もう一つ言うなら、来春には市長選が迫っている。今度のGD研究会の立ち上げや顔ぶれを見て、市長選への伏線、布石と見る市民も多いのではない。四選の声も出ている中島市長の心中に、穏やかならざるものが動き始めたのではないか。

(山本進一記者)